

「認証評価に対する意見交換会」概要（高等学校関係者）

日 時：平成 25 年 10 月 15 日（火） 15：00～17：00

場 所：学術総合センター 11 階 1112 会議室

参加者：別紙のとおり

岡本協議会議長による挨拶、及び事務局による説明（「認証評価及び認証評価機関連絡協議会の概要」、「認証評価の現状等」）後、認証評価に対する要望や疑問等について、高等学校関係者から御意見を伺った。

主な意見は以下のとおり。

【認証評価制度全般に関して】

- 今後グローバル化していく中で、特に専門分野の評価では国際的に通用する学問かどうか問われてくると思うし、社会人もさらに注目するようになると思う。
- 学部、学科といった最小単位で評価をしないと受験生は興味を持たないだろう。
- 今後人口が減っていくと、学生の募集を停止する大学が増えてくる可能性がある。大学の健全性をしっかりと見る評価が、これから注目されるのではないか。
- 第 1 期は初めてということで評価疲れがあったが、評価機関が項目を減らしたりして省力化したこともあり、第 2 期は本当に大事な項目をきちんと継続的に見て行く文化になってきている。今の問題はどちらかと言うと、学内で作っている計画と評価とのダブルスタンダード。これらをどうやってきちんと連動させていくかという別の問題が出てきていると思う。
- 大学ポートレート（仮称）で各大学の評価結果が統一的に見られるようになると、状況がかなり違ってくると思う。評価結果が大学ポートレート（仮称）に載るのであれば、ポートレートをいかに活用するかが重要になってくる。
- 認証評価で授業評価をどう改善につなげているかのエビデンスまで求めるようになってきているということを知り、評価機関は大学の中身を本当に良くしなければならぬという認識を持っているんだと思った。
- 大学にとっては高校生を確保できるというのは非常に大きなインセンティブになる。高校生が認証評価結果を基に大学を選ぶようになれば、認証評価が直接的に大学に働きかけるフィードバック機能と同時に、間接的に大学側の中身を問うて行くような、そのようなものになりうるという可能性を感じる。

【大学の現状に関して】

- 大学が掲げる 3 つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシ

一) について、大学間で具体的にどこが違うのかがわかりづらい。

○やる気のある優秀な生徒を大学院まで引き上げて研究者にしようとする大学、学生にある程度の知識や能力を身に付けて卒業させようとする大学、基本的にこれら二つに分かれる。質保証の考え方は大学によって多様である。

○学位名を見ただけでは何が教えられているのかよくわからないというのが現実。

○高校生から見て何が教えられているのかわかりづらくてもよいと思う。それぞれの学問分野が社会にコミットしており、学位がきちんと与えられることに対して社会の理解があり、それを第三者である高校生が見て「このような力を身に付ければ社会で活躍できる」ということがはっきり見えれば問題ない。

【進路指導への活用に関して】

○評価結果報告書を見れば、「この大学へは行かない方がよい」という判断ができる。

○「この大学へは行かない方がよい」もしくは「この大学へ行った方がよい」と生徒へ助言する際に評価結果報告書を利用している。パンフレットやウェブでは得られない情報が評価結果報告書には書かれている。見方がわかれば、ものすごく価値がある。

○進路指導の際に様々な資料を調べるが、最終的にどちらの大学を勧めればよいか迷うことがある。その時に、評価結果報告書に良い点として書かれていることがあれば、それを生徒に伝えるという形で利用しているが、残念ながら評価結果報告書を使える人が非常に少ない。

○進路指導の際に評価結果報告書を使っているが、多くの人は使えるものであることを知らない。予備校や受験産業が出す情報誌には「この大学はこのような認証評価を受けた」というようなことは書かれていない。

○高校の教員が評価結果報告書を使っていないという現状が大きな問題。十分使える資料なので、使うように広く知らしめることが必要。

○評価結果報告書は高校生には非常に読みづらいものなので、利用するのは非常に難しい。評価結果報告書をどのように読ませるかが鍵になる。

○大学は高校の進路指導教員へ説明をする際、認証評価の結果を使っている。高校側は認証評価自体を大学選択の基準にするよう指導することはあまりないが、最終的に生徒が出願校を決定する段階になると、認証評価まで確認することもある。

○認証評価は進路選択のために高校生や保護者や高校の教員が利用するものというよりも、評価結果を受け取った大学が改善するためにあるものだと思っている。大学側の認証評価の受け止め方、意識を

変えることが重要。学部・学科の情報については予備校や塾がわかりやすくまとめて出している。

【情報発信方策に関して】

- どのように評価結果報告書を読んで活用すればよいかという宣伝活動がもっとあればよいと思う。例えば、講演、評価結果報告書の見方の説明、パンフレットの作成等。
- フリーライターに認証評価について書いてもらってはどうか。高校の教員がそれを見て、使おうという気持ちになるのではないか。
- テレビでスポット的に「認証評価は日本の大学教育の質の保証を支えています」というような形でPRしてはどうか。
- 評価結果報告書の「このような点が改善された」というような部分を受験情報誌に載せてほしい。
- 高校の進路指導教員からは、「受験情報誌等で認証評価に対する情報を継続的に発信してもらえると、進路指導に利用しやすい」、「認証評価を受ける前と受けた後で大学がどのように変わったのかがわからないので、その点の説明がもう少し欲しい」、「認証評価に対する社会や企業からの評価をもう少し加えると、認証評価が社会的にどのようなポジションであるというのがわかりやすくなる」、「地方の高校教員に向けて、認証評価に関する説明会を直接開くなどの機会を持ってもらいたい。Web等の情報に比べ、実際に説明を聞いた方が教員側の理解も深まる」といったような意見があった。
- 評価結果報告書は大学の立場で書かれており、高校生や保護者や高校の教員にとっては読みづらい。文字だけでなく、レーダーチャートのようなものが必要なのではないか。
- 学生が受ける教育の質を保証するために認証評価を行っているということが非常に重要で、このことを伝えて行くべき。学生や保護者に伝わっていないのが非常にもったいない。
- 国民の多くは、大学評価等に多額のコストがかかっていることをあまりわかっていない。コストがかかっているとわかれば、認証評価に興味を持つと思う。
- 高等学校現場や保護者が安心して大学からの情報を使えるような仕組みを整えてほしい。例えば、就職率について「この分母で出さないと認めない」というようにするなど。
- 偏差値ばかりにとらわれない進路指導をしてほしいという思いが非常に強い。社会に出る力をどれだけ大学が学生に対して付けられるかといった、いわゆる就業力という意味合いでの教育力の情報を、ランキング形式ではなく、高等学校現場に提供したい。しかし、我々一社の力では毎年提供するのは無理。一つの方法として、認証評価の結果を予備校等が協力して、同じ基準で流していくことが考えられる。

(評価結果報告書のフォーマットについて、機関による違いは気にならないか)

○それぞれの機関がどのように設立されたかというバックグラウンドが全然違うので、同じにできるはずがない。ただし、読む側はそのことをしっかりとふまえて、どのようなフィルターを通して書かれているのかということを考えなければならない。

○用語が違っていたりするので、初めて見る教員にとっては難しいと思う。それぞれの都道府県の高校の部会が見方を示すなどしないと読むのは難しいと思う。書かれている内容をどのように読ませるかを考えることが重要。

(各地区の高校の進路指導教員を対象に、評価結果報告書の読み方を知ってもらう機会を設ける価値はあるか)

○教員は予備校が実施する秋の入試説明会のようなものにはみんな参加するが、それよりも評価結果報告書の読み方を知った方がよっぽどためになると思う。教員は情報を仕入れようという意識は持っているが、そのような場に足を向けるかどうかは疑問。そこに行かなければならないという形をいかに作るかが鍵となる。

○受験産業が多くの高校の教員を集められるのは、将来の予測を話すから。占いのようなもの。認証評価でもそのようなことをすれば高校の教員は集まるだろう。具体的には学修成果を「見える化」すること。別に数字でなくてもよい。「この大学は4年後にこのようになる可能性が高い」と言わないと、高校の教員は見てくれない。

「認証評価に対する意見交換会」参加者名簿(高等学校関係者)

氏名	所属、役職等
おい かわ りょう いち 及川 良一	東京都立三田高等学校 校長
こ ばやし ひろし 小林 浩	(株)リクルート マーケティングパートナーズ リクルート進学総研 所長 リクルート「カレッジマネジメント」編集長
たに ぐち てつ や 谷口 哲也	学校法人 河合塾 教育研究部長
ち ば よし ひろ 千葉 吉裕	東京都立晴海総合高等学校 教諭
ふく なが あや こ 福永 文子	ライター
やま した ひと し 山下 仁司	(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所 主席研究員
やま もと かず ひこ 山本 和彦	千葉県立船橋高等学校 教諭

(五十音順、敬称略)

「認証評価に対する意見交換会」参加者名簿(認証評価機関連絡協議会)

機関名	氏 名	役職等	備 考
(公財)大学基準協会	く どう じゅん 工 藤 潤	事務局長	認証評価機関連絡協議会WG委員
(独)大学評価・学位授与機構	おか もと かず お 夫 岡 本 和 夫	理事	認証評価機関連絡協議会議長
(独)大学評価・学位授与機構	つち や しゅん 土 屋 俊	教授	認証評価機関連絡協議会WG委員
(公財)日本高等教育評価機構	ぎが ら のり あき 相 良 憲 昭	副理事長	認証評価機関連絡協議会委員
(一財)短期大学基準協会	せき ね ひで かず 関 根 秀 和	副理事長、 第三者評価委員会委員長	認証評価機関連絡協議会委員
(公財)日本臨床心理士資格認定協会	た ばた おさむ 田 畑 治	常任理事	認証評価機関連絡協議会委員代理
(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE)	く どう かず ひこ 工 藤 一 彦	業務執行理事	認証評価機関連絡協議会委員
(一社)ビューティビジネス評価機構	かわ ぐち あき ひこ 川 口 昭 彦	代表理事	認証評価機関連絡協議会委員

事務局

(独)大学評価・学位授与機構	こ しま まさ き 児 島 昌 樹	評価事業部長	
(独)大学評価・学位授与機構	お やま だ りょう じ 小山田 享 史	評価企画課長	
(独)大学評価・学位授与機構	ひら の ただし 平 野 忠	評価支援課長	